



2013 USオープンゴルフ 松山英樹選手の快挙

北澤 晴樹

テレビ朝日
専務取締役

「遠くから見るとグリーン上にマッチ棒が立っている……」。

2013年USオープンゴルフの舞台はペンシルベニア州メリオン・ゴルフクラブ。世界のゴルフコースで常にトップ10に入る名門コースだ。ラフは長くフェアウエーは極限まで狭められている。距離は短めだが、115ヤードのパー3があるかと思えば256ヤードのパー3もあり、最終ホールは521ヤードのパー4という変化に富んだ超難関コースだ。おまけにピン・フラッグはなく、代わりに「ウイッカー・バスケット」という網籠が取り付けられている。プレーヤーに風を読まれないように設置したとも言われている。

そんなモンスターコースに松山英樹選手が挑戦した。

今年、テレビ朝日ではこれまでより1日多い5日間にわたって生中継を予定していた。

6月中旬、私がニューヨークに到着したときには雨が激しく降っていた。「今年の東海岸の気象はおかしい。USオープンも中断しているよ」とNY支局長が言う。現地では激しい雷雨でコースは水浸し、バンカーからポンプで水を汲み出しているとの情報も入ってきた。「試合はできるのか、放送はどうなるのか」不安を抱えてコースに向かった。

練習ラウンドは中止で、いきなり本番に臨んだ松山英樹選手だが、1日目は、またも雷雨のため7ホールしか消化できなかった。2日目は、第1ラウンドの残り第2ラウンド合わせて29ホールを一気に回った。この段階で松山英樹選手は+6の37位、トップはミケルソンの-1、厳しい戦いだったが予選突破という最初のハードルを越えることができた。

全米ゴルフ協会 (USGA) の女性幹部は「グリーン上だけでなく、フェアウエーでも点で捉えなければパーは取れないわよ。選手にアンダーを出させないためにUSGAは5年もかけてセッティングしているんだから」と胸を張った。

最終日、上位選手が次々にスコアを崩していく中、松山英樹選手は的確にフェアウエーをキープし慎重に攻め続けた。そして、大会ベストスコアタイの67をマークして10位という快挙を成し遂げた。優勝は+1のジャスティン・ローズ。世界のトップゴルファーとUSGAの戦いは今年もUSGAに軍配が上がった。

次の舞台はスコットランドで行われる全英オープン。松山英樹選手に期待したい。